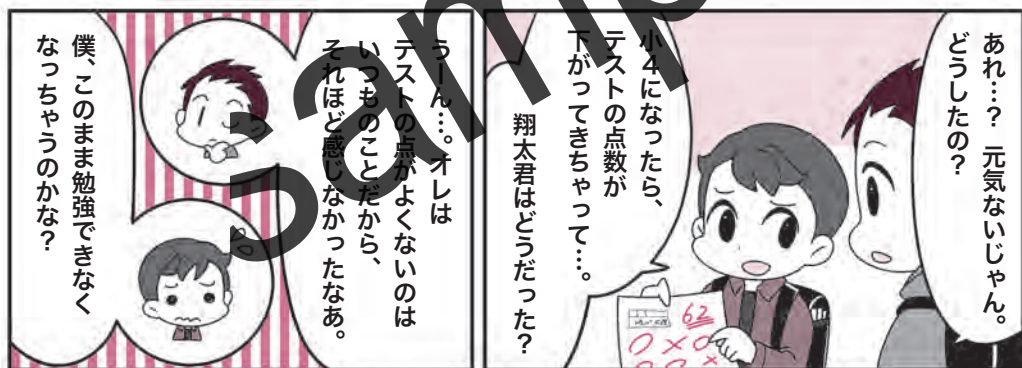


小学生の分岐点

～伸びる子のターニングポイント



学習内容が難しくなり、学習量も増えます。

各学年の算数で「たし算」が関係する学習の変化

学年	内容	特徴
低学年	小1 1桁の数のたし算／ 2桁の数のたし算(簡単なもの)	具体物や生活場面を通して、数や計算の意味を実感的に理解することを重視する。
	小2 2桁の数のたし算／ たし算とひき算の関係／ たし算の交換法則、結合法則	
中学年	小3 3桁以上の整数のたし算／ 分数のたし算(簡単なもの)／ 小数のたし算(1/10の位まで)	既習の計算技能を基に、数量の関わりや変化に着目して考えることを重視する。
	小4 小数のたし算／ 分母が同じ分数のたし算／ たし算・ひき算・かけ算・ わり算が混じった式の計算／ □、△などをを用いた式	
高学年	小5 分母が異なる分数のたし算	数量の関係を一般化・抽象化し、筋道を立てて考察・表現することを重視する。
	小6 分数・小数・整数の混じった式の計算／文字を用いた式	

低学年では、たし算の基本的な考え方や計算のルールの基礎を学びますが、中学年になると、整数以外を扱ったり、他の計算との関係、記号を用いた式など、たし算の基礎を様々な方向に応用することが始まります。

(学習指導要領をもとに、「まるわかりブック」編集部にて作成)

国語で学習する漢字・語句の扱いの変化

学年	漢字数	特徴
低学年	小1 80字	・日常生活で使う言葉の意味や言葉と事物との関係に気付くこと。 ・語と語のつながりに注意して話したり書いたりすること。
	小2 160字	
中学年	小3 200字	・語と語の関係に注意して文や文章の中で語句を使うこと。 ・語句の意味の違いや使い方に注意して読むこと。
	小4 202字	・段落相互の関係を踏まえて語句の役割を理解すること。
高学年	小5 193字	・文や文章における語句の働きを理解し、目的や意図に応じて語句を選んで使うこと。 ・比喩、反復、対比、強調などの表現の工夫に気付くこと。
	小6 191字	・語句の意味や使い方、文脈や資料などを基に説明すること。

中学年から、学習する漢字の数が急増します。また、語句についても、言葉同士の関係など、より複雑なものを扱うようになります。

(学習指導要領をもとに、「まるわかりブック」編集部にて作成)

内容が増えたり、難しくなることだけが、つまずきの原因なの？

実はほかにも理由があるんです。

学習カリキュラムは、子どもの発達段階に応じて組まれています。低学年までは、どの教科でも身の回りのことや、子どもが経験しやすいことが扱われています。しかし中学年からは、見たままではわからず、頭の中で考えて意味をとらえる内容も多く扱われるようになります。

A 算数では立体図形を本格的に学びはじめますし、整数だけでなく小数や分数も扱うようになります。

Q 中学年になってから学習内容が難しくなった気がするんだけど…？

小3からは生活科が理科と社会科になり、教科数が増えます。また、学習の量や扱う語彙数も、グンと増えます。例えば学習する漢字の数も、低学年は240字ですが、中学年は402字に増えます。ちなみに高学年は384字なので、中学年は小学校6年間の中で、最も多くの漢字を学習する2年間でもあるのです。

A 学習内容のとらえ方が深くなったり、語彙数が増えたりするので、教科書のページ数も増えていきますね。

Q 生活科がなくなったり、教科書も厚くなったりしている気がするんだけど…？

